

距離を生む木々

concept

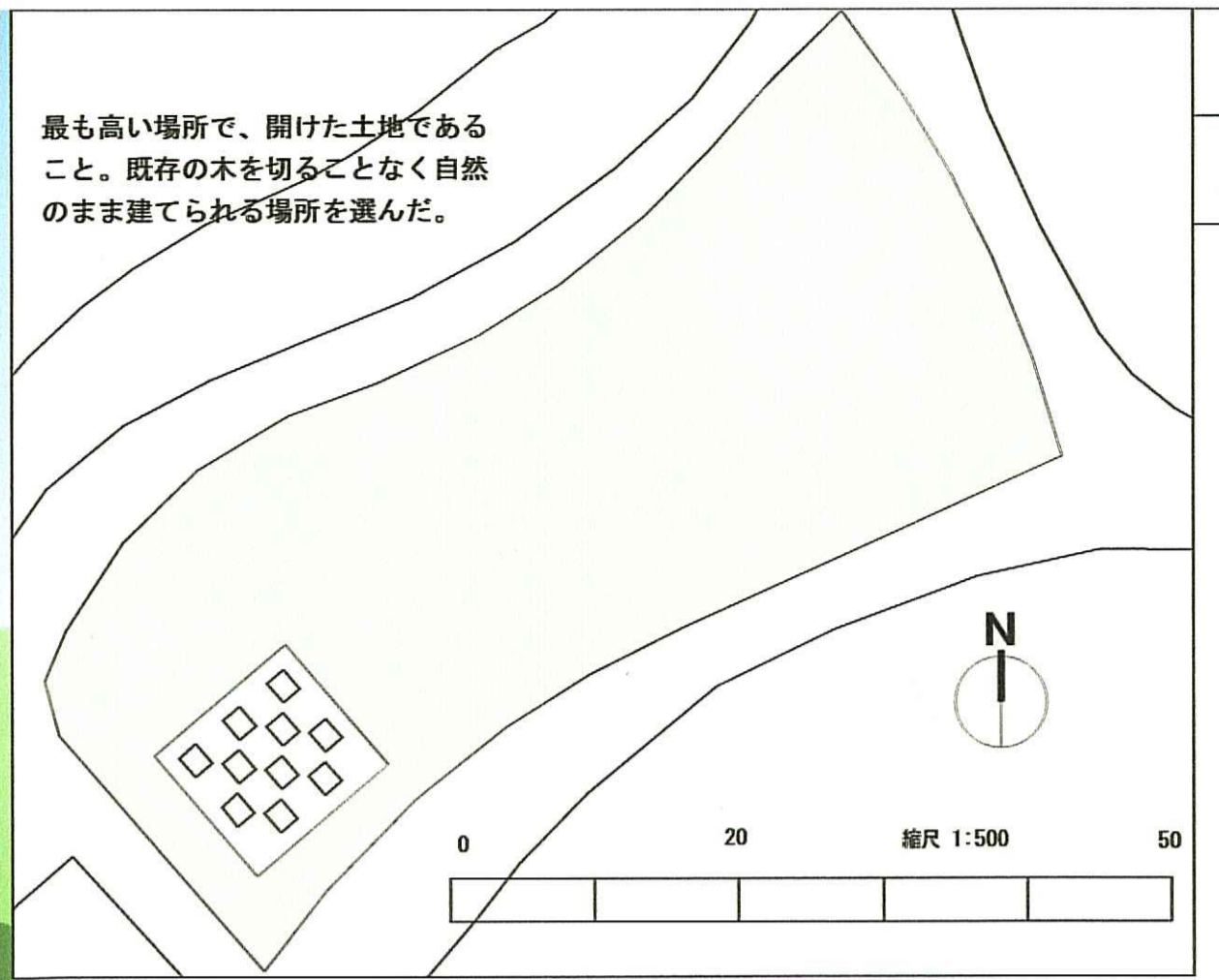
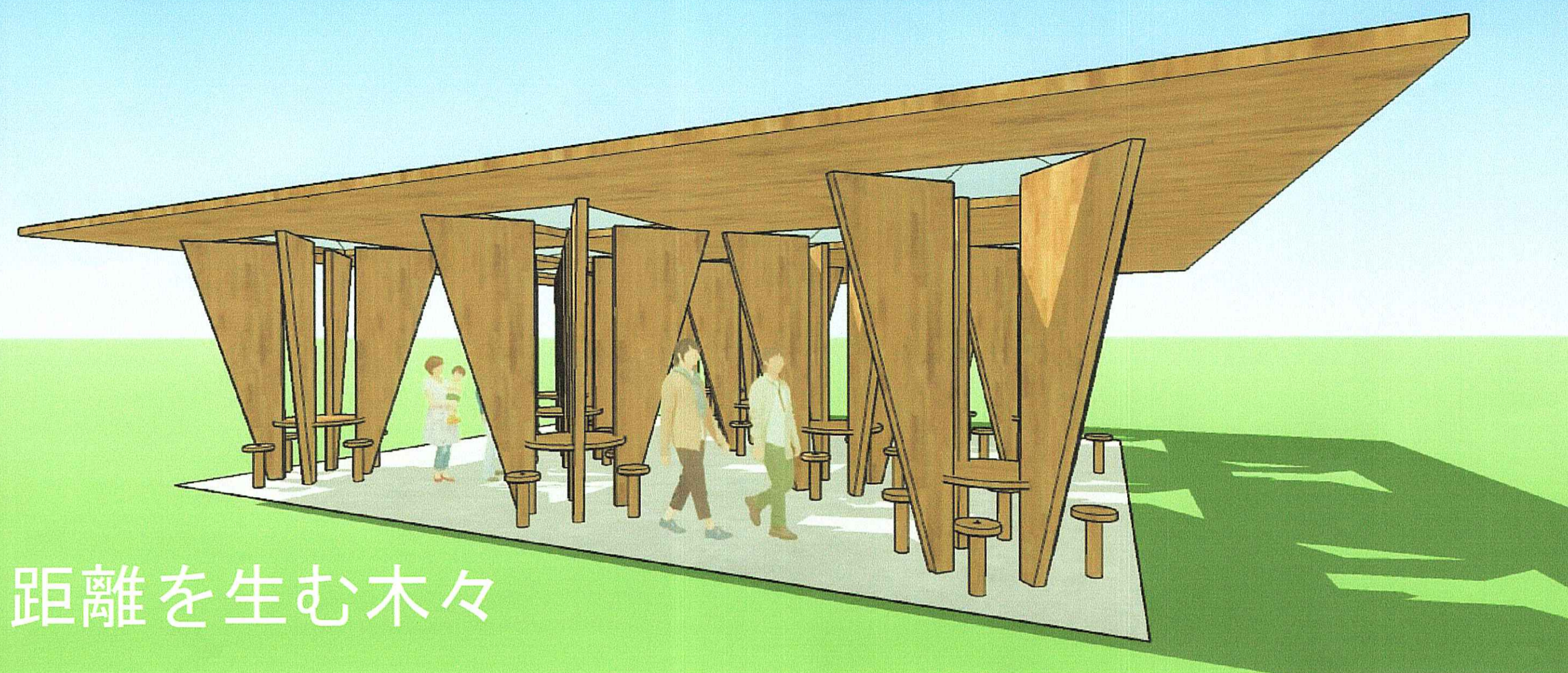
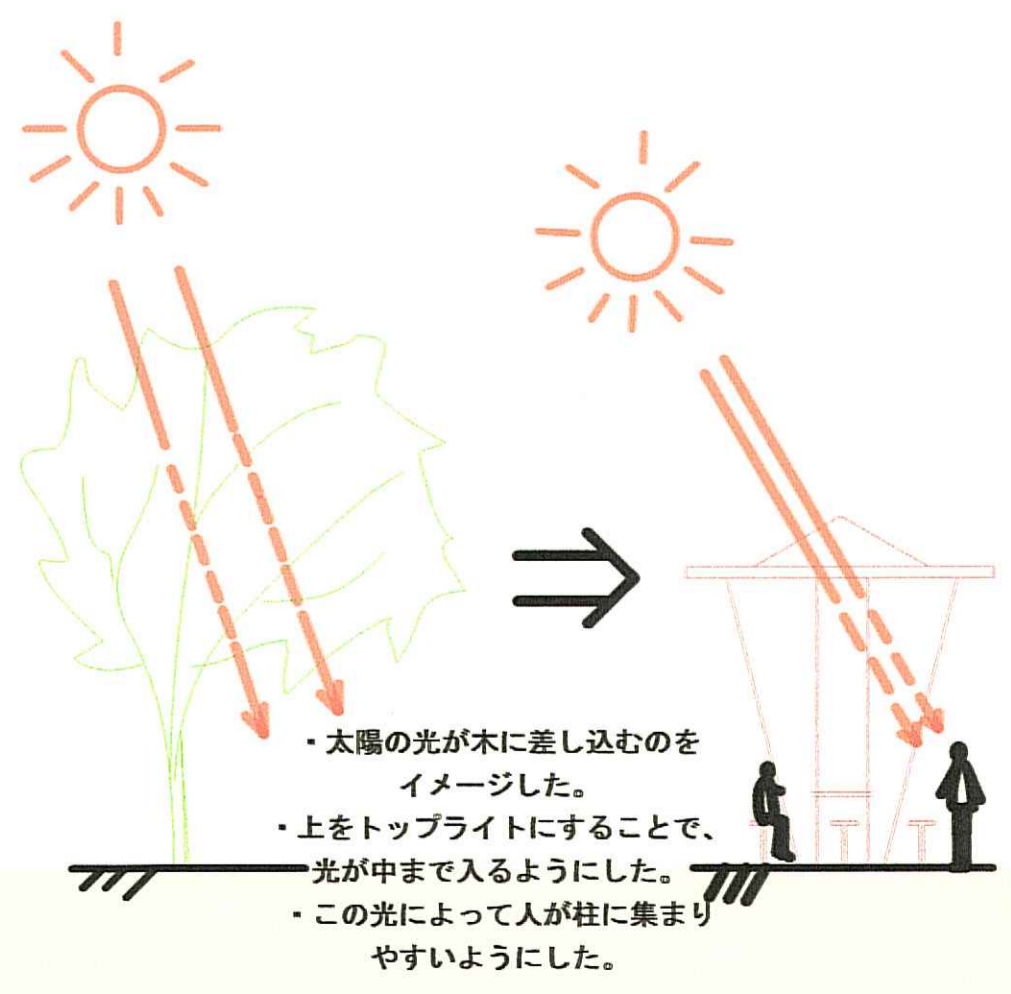
今の日本はコロナ禍により、思うように外で遊べず、集団になって集まることも出来ないようになっている。そんな中でも自然を感じながら安心して休憩できる場所を作りたいと思った。そこで考えたことが、椅子で休憩しているだけで、自然に周り2m以上間隔が取れるというものだ。柱・椅子・テーブルを一体にすることで、人がそこに集まってまとまるようにしたこと、柱の上だけをトップライトにすることで、光が差し込み自然と人が集まる場所とした。その休憩できる柱を周りからそれぞれ2m以上離すことにより、座っているだけで自然と距離が生まれるようにした。メインとなる柱は木をイメージして作ることで、周りの風景と馴染む建物になるように考えた。子供やお年寄り、家族連れまですべての人が、安心して休憩できる。そして建築の可能性も味わうことが出来ると思う。

・CLT工法による木材活用空間

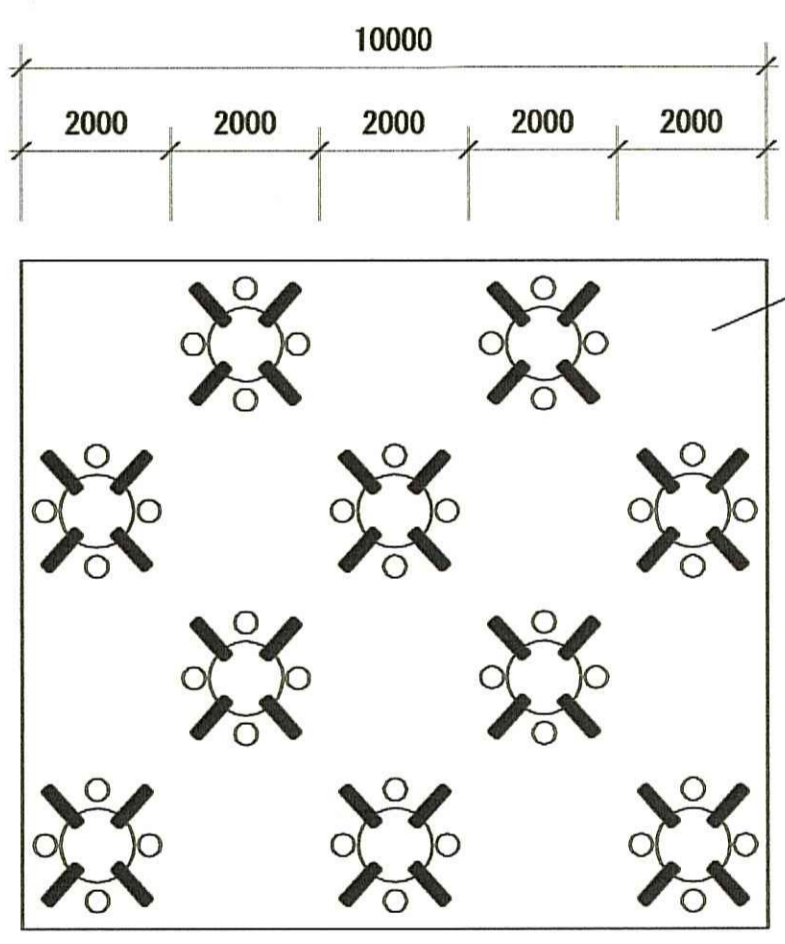
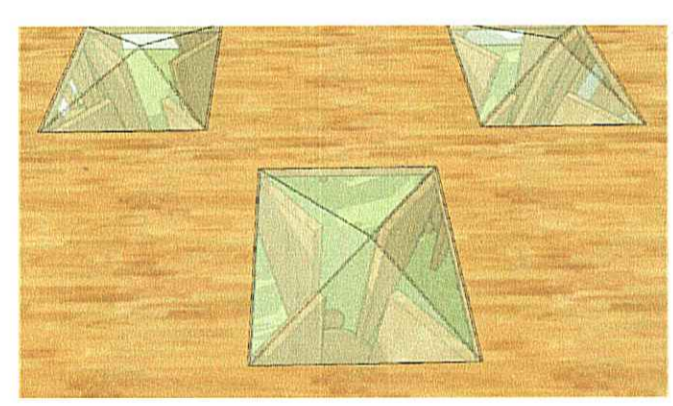
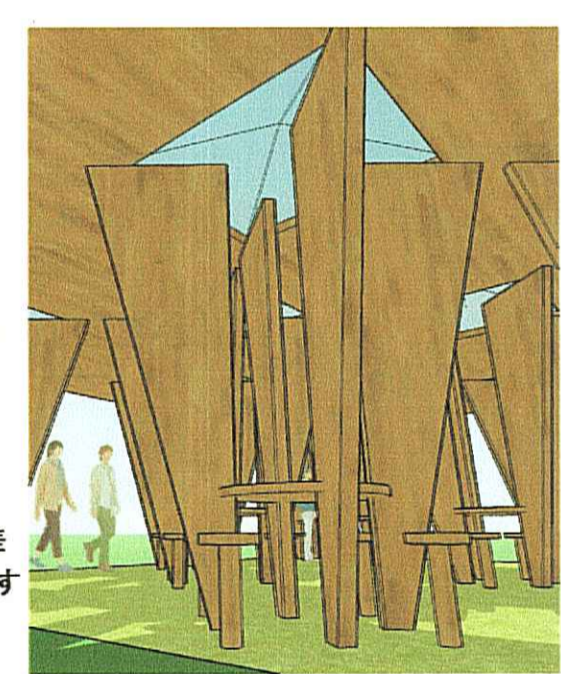
この建物には屋根を支える壁や大きな柱もない。屋根を支えるのは、幅90mmの板のような柱だ。これを実現させるために、CLT工法で造ることにした。断熱性に優れ、軽量でも高い強度を持つことができること。耐震性にも優れており、板の厚みも抑えることができることなど、CLT工法の特徴をこの柱や屋根に活かせると思ったからだ。資材を有効活用し、コストを削減することで環境にも優しい。

屋根は、テーブルの上をトップライトにして、光が差し込むようにした。ガラスをまっすぐにせず、上に出すことで光を分散させている。

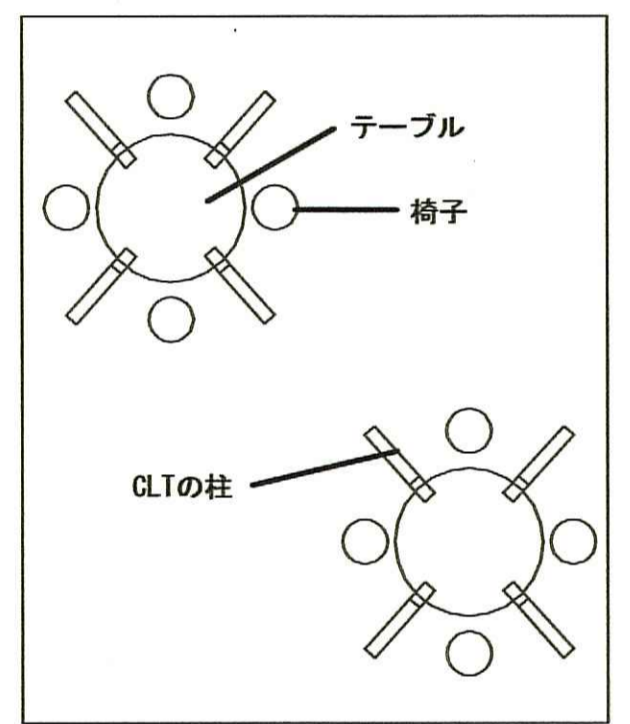
CLT工法：ひき板を繊維方向が直交するように重ねて接着した、板状の材料。



配置図 S=1:500



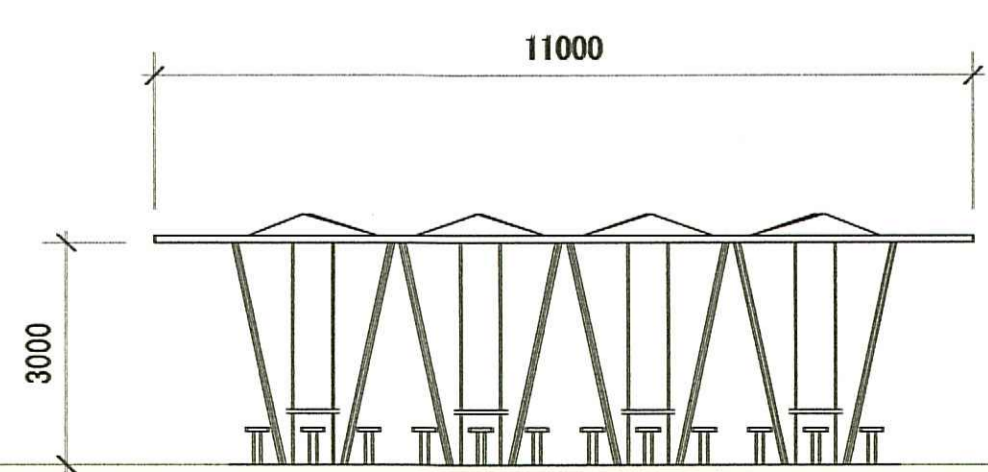
平面図 S=1:100



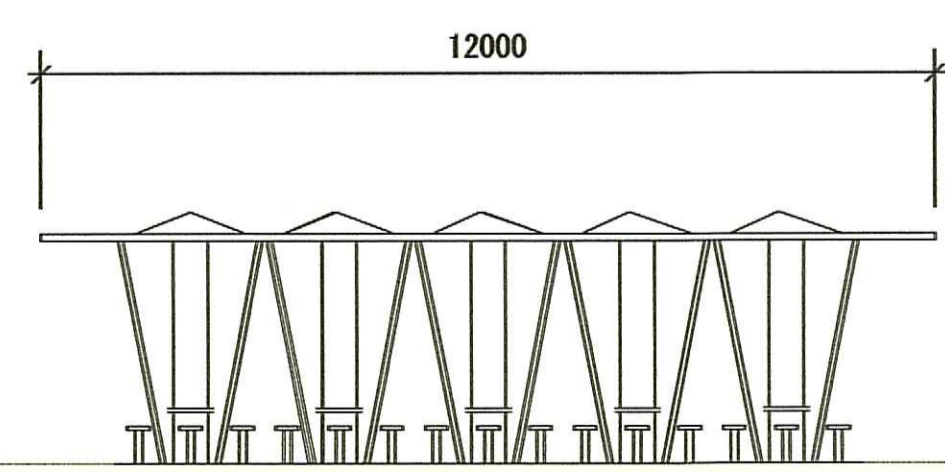
テーブルは柱の中心にあり、このCLTの柱によって支えられている。隣とは柱によって仕切られているが、このテーブルが1つになっていることで、繋がりや一体感が生まれるようになっている。椅子は高さが450mmで子供からお年寄りまで誰もが座りやすい高さとした。椅子もすべて丸くすることで、テーブルとの一体感が生まれる。幅90mmのCLT板が屋根を支えるための柱となる。

建築材料：木材 (CLT工法)
複合ガラス (トップライト)

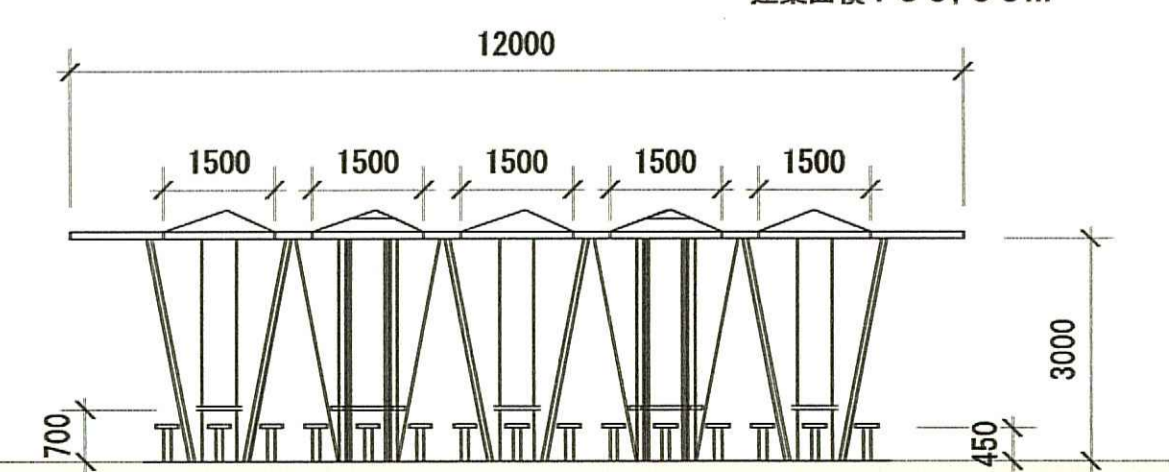
計画地面積：2700.00㎡
建築面積：90.00㎡



東立面図 S=1:100



北立面図 S=1:100



断面図 S=1:100

